

■ご挨拶

風力の適地開発と楽しみ

日本風力発電協会 監事 鈴木 正
日立造船株式会社 プラント第4営業部



はじめに

平成26年5月の定時社員総会で再任いただき、引き続き監事を務めることになりました日立造船の鈴木です。

所属する会社の営業部はプラント、エネルギー関連の営業部で、主に西日本関連の案件を担当しています。従来からある原動機を使った発電設備も無論その範疇ですが、風力も発電ということで、この部が担当しています。

当部は西日本担当と言いながらも、こと風力に関しては風の強い地域が北海道、東北に偏っていることから、大阪からアプローチしています。

適地の開発

私と協会の繋がりも深く、監事就任の度に執筆するこのページもあまり変わり映えしないと言われるのはイヤなので、風力一辺倒の真面目な路線から少し離れて、風力の適地開発に関連した話をさせていただきたく思います。

風力開発に携わる方々に共通することだと思いますが、風力開発は机上の検討から入りません。次に候補地が決まれば、当然ながらその土地に出掛けて、状況を調査します。私は長年、ガスタービンやガスエンジンを使った発電設備の営業を担当していましたから、客先はほぼ電力をたくさん使う工場が集中する都市部や工業地帯が主な出張先でした。しかしながら風力開発の適地は、従来の出張先とは全く逆の人口の少ない地方の農山漁村となりますので、当初はその違いに大いに戸惑いました。今でこそ風の強い地方に出張することに慣れましたが、最近では仕事とは別に楽しみも作るように心掛けています。

出張の楽しみ

☆出張先の地のもの：出張先の風景は日頃見慣れない美しい場所が多いのは魅力です。その日の宿は仕事先に近いことは必須ですが、貴重な出張時間の中で移動時間を短縮するため、付近の宿を探します。夕食も朝食も地の

ものを工夫した料理が出るので楽しみです。風呂が温泉であれば、言うことはありません。

☆お酒：私はお酒を好んで飲みますが、メインは洋酒。しかしながら東北に出張して地元で味わう日本酒にすっかり魅せられてしまい、今では銘柄ごとの味わいの違いも分かるまでになりました。適地探索で農山村に入る時には、トランクに作業着の他に長靴まで準備しますが、帰路はこの長靴が重宝します。何故ならこの長靴に美味しい日本酒の4号瓶がすっぽりと入るのです。この話は、会社で付き合いのあるスイス人に話したら超バカ受けしました。

☆元気なお年寄り：適地調査では自分の眼で現地を見るのが目的ですが、分らないことは地元の方々に話を聞くことが一番です。特に元気なお年寄りからは、たくさんの地元情報が得られます。しかし、全く当方に気遣うことなく方言で喋られた時には何度か聞き返すこともありましたが、最近ではやっと理解が追いつくようになりまし、元気まで分けてもらえる気がします。もうすこし経てばこちらでも喋れるようになるかもしれません。

閑話休題

最後はきっちり協会の話に戻しましょう。平成24年7月に導入されたFITの施行以降、導入に弾みがつくと期待された風力発電ですが、様々な規制や法があって太陽光発電に押され気味で、普及が進んでいません。

ご存知の通り、当協会の理事、協会職員は風力発電の普及と安全な施設運用を目指して、東京を中心とした各省庁や団体との折衝を続けています。これらの方々の尽力には頭の下がる思いですが、当協会も240社を超える会員を有する組織となり、協会の思いを実現するには不届の努力が必要です。

私も監事として協会運営に努力してまいりますので、なにとぞよろしくお願ひします。